

令和元年度 第3回長浜市総合教育会議 議事録

I 日 時 令和2年2月6日（木曜日）15時28分～17時03分

II 場 所 長浜市役所 本庁舎3階 特別会議室

III 出席者

【構 成 員】 藤井勇治市長、板山英信教育長、
井関真弓教育委員、西橋義仁教育委員、廣田光前教育委員、
美濃部俊裕教育委員、宮本麻里教育委員

【事 務 局】 米田教育部長、岩田教育委員会事務局次長、
横尾教育委員会事務局次長、土田教育改革推進室長、
伊藤教育指導課長、大田すこやか教育推進課長、
大音幼児課長、今井教育総務課課長代理、
古田総合政策部長、山内総合政策部次長、横尾総合政策課長、
柴田総合政策課課長代理、他 担当職員（3名）

【議事進行】 古田総合政策部長

【説 明 者】 且本健康福祉部長、長谷川健康福祉部次長、
村崎子育て支援課長、益田子育て支援課課長代理、
前畷生涯学習文化課長

【傍 聴 者】 無し

【報道機関】 中日新聞

IV 内 容

1 開 会

2 市長挨拶

（要旨）

第3回長浜市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。教育委員の皆様におかれましては、日ごろから子どもたちの教育の充実と発展、そして健全育成のために、大変なご尽力を賜っておりますこと、心から感謝申し上げます。

さて、本日の会議の意見交換テーマは「放課後の子どもの居場所」でございます。近年、核家族化や過疎化により地域のコミュニティが希薄化し、学校・家庭と並んで子どもの教育の担い手であり、居場所であった「地域」の役割が小さくなっています。

一方で、共働き家庭等の増加により放課後児童クラブのニーズが増しており、本市においても約 1/3 の児童たちが放課後児童クラブに通っています。国においても「新・放課後子ども総合プラン」を定め、受入体制の強化を推進していますが、小学校の空き教室や支援員の不足により待機児童が増加するという問題に直面しています。

社会情勢の変化や価値観の多様化により、子どもを取り巻く環境は大きく変化していますが、子どもが地域の宝であることは変わりありません。子ども本位の視点に立ち、個性が尊重され健やかに成長していくためには、地域全体で取り組んでいく必要があります。

今回は本市における放課後児童クラブの現状を報告させていただいたあと、教育現場や地域、家庭においてどのような居場所づくりが必要か、ご意見・ご議論を賜りたいと思います。

教育委員の皆様と行政が今後の長浜市の教育のあり方について活発な意見交換を行い、子どもたちを育む環境について、より良い方向性を見出すことができることを心から期待してご挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

3 意見交換

議事

「放課後の子どもの居場所について」

(1) 行政説明

長浜市の放課後児童クラブの現状や課題、今後の対策等、資料に基づき説明。

(2) 意見交換

子どもを取り巻く環境が時代とともに変化する中であって、以下のテーマについて自由に意見交換を行った。

- ① 子どもにとっての「より良き居場所、学びの場」とは何か
- ② 学校、地域、家庭の各主体が「より良き居場所、学びの場」を作るために、担うべき役割
- ③ それぞれの主体が連動、関連することの重要性と、そのためにすべき各主体の取組み

〈意見：教育委員〉

私の知り合いに放課後児童クラブの支援員の方が何人かおられ、色々と話を伺っています。3点あります。

1点目は、現状は学校や公設・民間によって違うかもしれませんが、学校と放課後

児童クラブ（以下、クラブとします。）の連携が大事でないかと仰っておられました。

連絡帳に「学校は行くがクラブは休む」と書いてあっても、クラブに伝わらなかったり、学校で何かあって、それを引きずってクラブに来る子どもがいても、その状況がわからなかったりすることもあり、連携が大事であると思いました。

また逆に、子どもに何かあった時にクラブからも学校へ引き継ぎすることで、先生から色々サポート等もできるので、学校の窓口をどうするのかとか、悩んでいる支援員の方がおられました。

先生もお忙しいですし、民間のクラブへ子どもが行ってしまうと同じ施設内ではなくなるので連携も難しくなります。今はICTの時代ですので、機器を利用して情報をまとめて発信できるようなことができるといいなと思いましたし、連絡をもっと密にすることが大事ではないかと感じました。

2点目は親や子どもが求める安心・安全とはどういうことなのか、より良き場所とはどういうものなのかと思いました。特に心理的な安心・安全というのはすごく大きいかなと思います。

子ども同士がクラブで集まれば、異年齢でもありますし、トラブルがあっても当たり前の環境です。例えば人間関係で喧嘩があった時にどういうふうに解決していくのか、支援員の方はそのノウハウをもっと知りたいと思っておられます。

学校にはカウンセラーやソーシャルワーカー等がありますが、クラブにも支援員が相談できる仕組みが必要ではないかと思いました。

また、トラブルがあった時はチャンスだと思って、子どもたちの心を育てるようなプログラムもあればいいなと思いました。

3点目は、子育て支援課から各クラブへ見に行っていたいただいているとは思いますが、日頃から現場の様子を見ていただいて、現場を研修の場として、実際に何か起きた時に具体的な研修を行うことができればいいなと思いました。

〈意見：教育委員〉

少し冷めた目で見ると意見を言いますと、クラブに行こうと思うと月8,000円の授業料がかかります。例えば申し込んだ子どもが予定通り行けなくても8,000円という金額にはわかりありません。

先日、教育委員会の学校訪問で北郷里小学校に行きました。そこで校長先生からお話を聞きました。学校では学力を身に着けることが一番の目的です。この学区にある教育集会所では、学年の若いころから学習習慣をつけるため、週に2回の青空教室を地域の子どもたちを対象に実施しています。後でクラブができて、そちらへ人が流れていきました。教育集会所は地域で取り組んでいましたが、今では児童生徒60人の内、16人しか参加していないとのことでした。他の子どもたちはクラブへ行くことや習い事等をしているそうです。

今まで地域で長年取り組んできたことを損なうことなく、クラブを運営していくに

はどうしたらいいか。地元と話し合ってもらうことも大事なことでないかと思えます。この青空教室は子どもたちに家で勉強する習慣を身に着けること等を目的にやっておられるそうです。親にしてみたら週に二回の青空教室よりは平日毎日やっているクラブへ流れてしまいがちではありますが、今まで地域でやってきた良い面を損なうことなく、クラブと一緒にやっているとありがたいと思えます。

2点目はクラブで何を中心にやっていくのか、中身が大事だと思います。現在の親は安心・安全だったら預けておいたらいいという考え方を持つこともあると思えますが、クラブはただ単なる居場所としてだけではなく、「こういうことをやっています。必ずお子さんのプラスになりますよ。」といった方針があるといいなと思えます。

支援員の資質の向上といえますか、色んな面においてこの支援員に預ければより安心だと言えるような支援員の確保をお願いしたいです。法律では子ども40人あたり支援員が2人とされていますが、それに加えてより手厚い内容ができるように確保を目指していただけたらと思えます。

〈意見：教育委員〉

場所の不足ということが説明で出ていましたが、私が現役の時は学校の様子を見ていますと空き教室が沢山ありましたので、クラブへ教室を提供しました。市役所の課によっては学校教育の方との連携がなかなか難しいところもあると思えますが、学校の施設は立派なものがたくさんありますので、市としては有効利用していくことは不可欠だと思います。

また、支援員があまりいないと聞いていますが、退職された方の活躍の場ということと言えますと、支援員への謝礼がどのくらい出ているのかわかりませんし、国の規定で一律といったこともあるかもしれませんが、この時代にあったものを考えていて、有能な方がそこで活躍してもらえるようなことも考えていかななくてはならないかなと思えます。

最後に、地域での居場所ということでお話でしたが、長浜市内でも沢山子どもたちがいる街中と過疎が進む地域と状況が違うように思います。私が住んでいる地域では子どもを村の中で見ることがあまりありません。塾へ行ったり、クラブへ行ったりしていると思えますが、どこにいるのだろうというのが実態です。でも子どもがまったくないわけではありません。

やはり、地域で子どもを育てるという意味では、過疎のところ等では、もう一度、大人が結びつくような仕掛け、子どもを育てる親同士が相談できたりする仕組みを考えていかなければならないと思えます。公的なものも必要であると思えますが、小さな村の中ではもう一度、大人を引き出す仕組みを考えていく、子どもにとっても横のつながりもありますし、若い親が孤立しないようにすることがこれからはしばらく大事になってくるのではないかと考えています。

〈意見：教育委員〉

私は子どもを夏休みだけクラブへ行かせていて、(子どもは)とにかく行くのを楽しみにしています。配布資料のアンケート結果を見ても「クラブで楽しく過ごしていますか?」という問いで「そう思う」と回答した割合が高いです。本当に色々な努力というか、毎日こんなにイベントをしてくれていいのかなと思うぐらい、すごく色々なことをしてくださって、私たちでは教えてあげられないような、地域の人たちが入ってきてくださり、昔の遊びや炭焼き体験など、毎日、色々な事をしてくださり感謝しかありません。

他の委員の方のお話にもありましたが、余呉地域ですら子どもが本当に誰も外に出ていないんですね。余呉地域では通年でクラブに通っている子どもは少ないと思いますが、学校からバスで帰ってきて、じいちゃんたちが見えてもお母さんたちが見えても、それぞれのお家に帰っても出てこないという感じです。働いている者からすると安全という面では、「おじいちゃんちにいるから大丈夫」とは思いますが、子どもたちからすると学校から帰ってきて、みんなで集まりたいけど、なかなかそれが許される環境ではなく、外で遊んでも運転が危ない車が通るから、どうしても「あまり外に出ないで。」と言ってしまうところもあります。

やはり、先ほどのお話にもありましたが、地域の集会所とか空いているところはたくさんあるので、そういうところでみんなが集まれるような、学童保育とはまた違う仕組みや仕掛けができていくといいなと思いました。ただそれは、私たちからすると、見てもらっているじいちゃんたちの負担にならないような形にしたいです。誰が運営するとか、もちろん色々考えることはありますが、地域の場所を使って近所の友達だけで会う場所があるだけで世界は変わると思います。

あとは、スライド22のところに「クラブの運営について重要と思われる項目は?」という利用者アンケートでは、子どもの安全の確保と支援員さんの経験などが大事と思われると書いてありますが、この会議に向けて何人かのお母さんに調査したところ、揃って言われたのがやはり支援員さんの質のばらつきでした。もちろん、みんな感謝はしているので、文句ばかり言っているわけではありませんが、子どもを安心して任せられる部分が、たまに不安になることもあるそうです。支援員さんのスキルアップというか、ばらつきがないような研修があるとありがたいとのことでした。

また、一番多かった意見は施設の広さで、どうしても狭すぎることでした。走りたくてしょうがない歳の子もたちが多いので、ちょっと長い間、同じ場所で過ごすのは難しいなという課題が挙がってきていました。すでに対策のところを考えてくださっていたので、やはり空いている学校の敷地や周りのところで施設を確保していただいて、私たちが働いている間、子どもたちがもっと楽しく過ごしてくれていたらとてもうれしいなと思いました。

最後に、夏休みの間、子どもをクラブに預けていて思いましたが、地域の支援員さんが本当にボランティアのような感じで手伝いに来てくださっていて、プールに行きたいとなったら、余呉地域のクラブの場所は当時、小学校ではなかったもので、ちょっと離れたところから学校のプールまであんなに暑い中、70歳を過ぎていると思われ

る支援員さんが何人もついてくださり、安全を確保してくださいました。もうなんか、申し訳なさ過ぎて、もうえらいやろうなという、ボランティアで来てくださっている人だから無理させてはいけない気持ちと、でも、預けるのでスキルアップして欲しい気持ちと両方の思いがあって、どうしたらいいかと考えていた時に、この対策の中に支援員さんのお給料の改善や研修の機会を確保することが書いてあったので、出来るだけ早めに対策をとっていただけたらありがたいなと思いました。

〈意見：教育委員〉

今日の会議に参加して、色々と学ばせていただきました。一番気になっているのは来年度の市内のクラブの地図です。最近、インフルエンザが流行っていますが、医師会から送られてくる学校休校の状況は一覧表で、このような地図のタイプではありません。この地図は一目瞭然でとても見やすいです。

各委員の皆様の意見を聞かせていただきましたが、私も感じるのは、子どもたちをたくさん見るのは朝の登校の時間だけです。私がいるところはたまたま虎姫小学校の近くですが、普段はあまり子どもを見かけず、どこの在所に行っても静かです。子どもはどこに行っているんだろうと思ってしまいます。この地域は歴史も自然もいっぱい良いところがあります。クラブがあるから、多分クラブに行っているのではと思っています。

ただ、活動を見ますと自由に色々やっておられますが、防災ということについてはどこの自治体でもかなりピリピリしておられます。子どもが生きるために、逃げる力、そういう訓練が必要ではないかと思います。クラブの遊びが体の訓練になればもっと素晴らしいのではないかと思います。

〈意見：教育委員〉

今、学校の方では、子どもたちに自尊心や自己肯定感を持ってもらおうと先生方がとても大切に育ててくれています。それがクラブに行きますと環境が変わってしまうので、ある程度、はっちゃけてしまう子どもがいても当たり前かもしれません。ある方が毎週、クラブへお話し会に行ってくださいっていますが、そこでは女性の支援員の方がずっと怒っている場面を見かけるそうです。そういった子どもたちとどう接したらいいか、連携として学校からアドバイスをもらえたらいいなと思います。

また、夏休みはそれぞれのクラブでプログラムを組んでおられます。子どもたちにどのように過ごしてもらおうか、色々と考えてくださっているみたいで、私たちもクラブへ寄せていただいています。

家庭はもちろん、学校とも連携しながら、クラブにおいても子どもたちをどう育てていくか、子どもの育ちというものを見ていただけたらなと思いました。

〈教育長〉

私は教育長に就任してからクラブに関心を持ちましたのは、いくつか理由がありま

して、夏休みに旧市内のとあるクラブに子育て支援課と一緒に訪問したときでした。そのクラブは3階にあって、冷房も効いている快適な部屋でしたが、廊下を出て外を見ますと青々したプールが横にありました。もちろんそのプールは誰も使っていません。夏休みに子どもたちが、たまにこういう快適な環境で過ごすのであればいいのですが、本来、どうなのだろうと思ったのが理由の一つでした。

もう一つの理由は、私の現職時代の友人で、現在、子育て支援課の支援員の束ね役をしている人がいます。その友人が夏休み前に学校を巡回していて「明日から夏休みで楽しみやなあ！」と言ったところ、子どもたちからの返事で「別に何も楽しみじゃない。明日からまた学校やもん。」というやり取りがあったそうです。

これを聞いたときに感じたのは、クラブに2, 200人を超える子どもたちが通っているのであれば、真剣に考えていかなければならないのではないかということです。色んな本を読んだり、自分で調べ始めたのですが、その中で気づいたのは、地域で子どもを育てるべきだが、そういう地域でなくなっているということです。クラブに通っている子どもたちのお母さんに話を聞いていますと、「そんな立派なことを言っても、地域に子どもがいません。それならクラブに行く方が安心です。」と仰る方もおられます。地域で子どもを育てる場所が、現在、クラブに移っているということを前提に考えていくべきです。

しかし、クラブのことを子育て支援課等がすべて担うというのは正直言って難しいと思います。支援員さんがこの雇用形態で誰が来てくれるというのでしょうか。現場を退職された校長先生や教員の方に声をかけるのですが、大体断られることが多いです。クラブの時間に行っていたら、自分のことはあまり出来ませんし、朝から夕方まで行って給料もらう方が良いと思うのは当然です。

私がとあるクラブを訪問した時に、ちょうど先輩にあたる方がおられて話をしました。「ご苦労様です。」と言ったら、「もう放っておけないんや。」と、そういう方が支援員を頑張らせてやっていたのが現状で、さらにそういった支援員さんたちの資質を向上していこうと、子育て支援課や教育委員会等の行政が担っていくのは、言うのは簡単ですが、年1回、または半年に1回の研修をしたとしても、なかなかしんどいと思います。

また、クラブの子どもたちの中には支援員を先生として見ていないこともありますので、言うことを聞かないことも当然あります。ですから、教育委員会も学校も可能な範囲で関わっていくべきだと私は考えます。月一回や週一回の関わり方もあるでしょうし、また、地域の多様な方がクラブに関わってもらうことで、クラブに通う子どもたちの姿を見てもらうことができます。こういった積み重ねから地域で子どもを育てる、教育していく大きな力になるのではと思います。

クラブの支援員さんはどちらかというと、それをコーディネートする役割に立つほうが、上手く運営できるのではと考えています。

最後に、民間のクラブにも訪問に行ってきました。民間なので設備投資もいろんな所におられます。そこにはテレビゲームや新しい本、おやつまでもが置いてあり

ました。そのクラブに通う子どもたちの顔つきは明るいです。決して子育て支援課を非難するわけではありませんが、公設のクラブでは、本は古く、これに手を伸ばすだろうかという気はします。そういった面でも質を向上しなければという声をいただきますが、なんとかしないと、もうすぐ市内の小学生の半分の子どもたちがクラブに通う時がきますので、クラブで起きた問題は必ず学校や家庭に連動してきます。クラブが優れた教育機能を果たして行くことによって、子どもたちを育てていく。そういったプラス思考で取り組んでいくべきだと思います。

地域学校協働活動というのを県も色々取り組んでいます。県内では子どもたちの学びの場として、「放課後子ども教室」というのをやっているところもあり、色んな力を結集させていくことが必要ではと考えています。

〈市長〉

委員からも指摘がありました。学校とクラブの連携をしっかりとしていかなければならないとありましたが、大変、気になりました。まもなく市内の小学生の半分くらいの子供たちがクラブに通うということですが、クラブは教育委員会にとってどのような位置づけなのでしょう。

〈回答：事務局（教育委員会事務局）〉

前身として、教育委員会事務局にあったものが移行しているという経過はありますが、子育て支援課だけに任せているわけではなく、教育委員会も共に、携わるところまではいけていませんが、思いを寄せているというところです。

〈市長〉

子育て支援課の話によると、学校側にも大変協力していただいているということでしたが、責任はお互いに五分五分ではないか、応援していただいているという表現ではなく、「一緒になってやってもらわないと困るのです。」という主張はできませんか。

〈意見：教育委員〉

学校の立場から言いますと、私の職場は高時小学校だったのですが、体育館の横にクラブの教室があります。たくさんの子供がそこへ行きます。学校の中で色々なトラブルが起きたという子供もそこへ行きます。これは放っておけない、家に帰るまでに何か伝えておかなければということが起きたとき、クラブの支援者に連絡をしてくださいと言うのが管理職の立場からすると精いっぱい、連携となると毎日、色々なことをそれぞれの担当が報告するというのはちょっと不可能です。学校は学校の放課後があり、家庭への連絡もあり、たしかに協力していかなければということはありませんが、一応そこで子供たちが放課後に下校するという形ですので、そこで学校の責任を切っていないと、責任の所在がかえってあいまいになってしまいます。クラブの支援員の方も、一応、そのように受け止めていただいているようで、「連絡いた

だきましてうまく対応できました。」という関係を築いています。

それを仕組みで整備してしまうと、教員の働き方改革とはそぐわないものになってしまいます。協力しないわけではありませんが、伝えなければならないことを伝えるのが精いっぱいだと思います。

私が「協力」と言いますのは、学校施設の中で夏休みに空いている場所は使っただけのように柔軟に対応することは、管理職や学校の立場でできると思います。平生は放課後になって暗い時間に子どもたちが、校内に入ってくると収拾が付きません。例えば、設備的にうまく仕切りが付いていて、この部分は使用可能というようなことを教育委員会など、市として仕組みを作っていくようなことがないと、学校側としても大変です。

〈意見：教育委員〉

クラブは市長部局がやる前は教育委員会が所管されていたのですね。変わったのはいつ頃なのでしょう。

〈回答：事務局（子育て支援課）〉

平成 18 年の市町合併の前くらいに健康福祉部子育て支援課へ所管が変わっています。

〈意見：教育委員〉

その辺りに私も教育委員会にいたことがあります。長浜市においてクラブはかなり前から教育委員会がやっていました。他の委員の方も仰るように、クラブは学校管理下外のものであり、本来、教育委員会が主にやる仕事ではなく、子育てという感覚で市長部局へ移ったという経緯があると思います。なぜ教育委員会から市長部局へ移ったのかをもう一度精査して、今の問題を考えてもらう方がいいのではと思います。

〈市長〉

市民から見れば、クラブへ子どもを安心して預けることができるのであれば、健康福祉部でも教育委員会でもどちらでもいいと思います。先ほど仰っていただいたように、責任対処だけしっかりして欲しいというのはよく理解できます。双方が押し合いへし合いとならないように、子育て支援課が責任者としてやっていますが、学校側と出来得る限りの連携をして、連携不足ではないように、しっかりと応えていかなければならないと思います。連携は難しいところはありますが運営に支障がなければいいですね。

〈教育長〉

「ここまで」という区切りではなく、学校も地域も可能な範囲内で関わっていければいいと思います。問題は、どこが責任を持ち、どこが主体となってやるということ

ではなく、その辺りの意識の転換が必要だと思います。

実例をお話しますと、冬にとあるクラブを見学に行きました。日が暮れるのも早く、最後に私たちが教室を出ていく時には廊下も暗くなっていました。「電気は付けないんですか。」と私が支援員の方に聞いたところ、「消し忘れて学校に迷惑がかかるといけないので、付けないようにしているんです。」と支援員の方は仰っていました。クラブと学校の仲が悪いというわけではありませんが、間借りさせてもらっているという遠慮があるのかなと思いました。

先ほど、委員の方も仰っておられましたが、支援員さんが怒ってばかりと言っておられましたが、何かあった時に矢面に立つのは支援員さんですよ。そうすると、安全優先第一主義にならざるを得ない部分がありますが、支援員のレベルを短期間で身につけるのは難しいと私は思います。

やはり、積極的に地域の力、資源を投入し、人に協力を依頼して、根本的に運営の仕組みを組み立てるときだと思います。

〈意見：教育委員〉

今、教育長が仰ったことに同感です。やはりクラブは安心だから預けますし、今の時代は交通事故や誘拐など、危険がいっぱいで不安です。ただし、あくまで家庭や地域で子どもたちを支えていく必要があると思います。

この地域は自然がいっぱいあります。私は毎朝、湖岸に行き、ハクチョウが飛び立つ瞬間の写真を撮ります。ハクチョウたちを見てわかったことは、天気が悪く、湖面の波が荒い時には早く飛び立ちますが、天気が良い時はいくら待っても飛び立ちません。また、雪が降っているときこそハクチョウたちの良い写真が撮れます。

私と同じように地域の皆さんもたくさんの発見を持っているので、この地域の力を結集して子どもたちを育てていくことが大事ではないでしょうか。長浜市は文化も自然も素晴らしいものがいっぱいありますので、そういったところを利用して、教室の中ではなく、外で遊び、外に学ぶ、自分の五感で感じることを私は重要視しています。

〈教育長〉

同感です。クラブはなにも年中、教室の中でやる必要はないと思います。お寺に行ったり、地域に出かけることも大切だと思います。「そこで怪我したらどうするのか。」とマイナス思考なことを言い出したら何もできません。そういったところを地域や学校においてクラブで子どもを育てるというのであれば、考えるべき時期だと思いますし、それを子育て支援課だけで考えるのは無理だと思いますし、教育委員会も学校も地域もみんなと一緒に考えて考える時だと思います。

〈意見：教育委員〉

質問です。クラブそれぞれの運営について、今、教育長が言っていたようなことをやっていこうとすると、独自性をどのように出していけるでしょうか。例えば

地域の人材を活用したり、ボランティアを募ったりするのは誰がやるのでしょうか。市がやるのか、クラブの責任者が地域を回るのでしょうか。

〈教育長〉

ちょっといいですか。私はその具体的な組織が地域学校協働本部だと思います。地域も学校も入るその組織にクラブの運営を委託するのも一つの形であり、また、共同で子育て支援課と協働本部がやるのも一つです。形は地域ごとに違うと思いますが、形を作ってからでは遅いと私は思います。どこかでスタートを切らなければと。

教育委員会も地域学校協働本部については、コミュニティスクールや学校運営協議会との違いなど、検討を繰り返している段階ですが、問題が色々出てくると思います。例えば、土曜学習会など、全国的にもやっていることを、長浜市でも具体的に実施に向けて検討したいなと考えています。

〈意見：教育委員〉

クラブの独自の運営は任されているのですか？すべてのクラブで同じことをしているわけではなく、クラブごとに独自性を持ったことをしているのでしょうか。

〈回答：事務局（子育て支援課）〉

公設クラブの基本の運営の方法は同じですが、各地域の読み聞かせの方にクラブへ来ていただくとか、少しずつですが始めているのが現状で、そのクラブの方に呼んでいただいています。しかし、資料のグラフにもありますように、子どもたちの人数がどんどん増えていきますので、日々の運営や受け入れをどうするのか、精いっぱい状況です。今の体制の中で、地域の役割をクラブのリーダーにお願いするのは負担のかかることなので、新たな力で支えていただくのが必要になってくると考えています。

〈意見：教育委員〉

私は地元の地域づくり協議会の委員をしまして、大きな市になりましたので、小学校区で色んな活動をしていこうと活動していますが、なかなかうまく機能しないんです。でも、とても大事なことだと思っています。こんな大きな市になって市役所の人にやってもらうのは難しいので、やはり小学校区くらいのそれぞれの地域に依じて、地域の人が知恵を出してやっていく。もう一度みんなが呼び起こす。本当の地域の課題は何かということが皆わからないですから、市から全体を見て子育てのことが課題として投げかけてもらえると、私たちも動き出せる。そこに学校の先生にも知恵を出してもらう。クラブの人にどんなことに困っているのか聞いて、動き出していく。今は考え方や仕組みが大きく変わってきている時代ですから、教育委員会や子育て支援課の発想だけでは、他所のところまで手を出しにくいですから、協議会などの組織を活用しながら、大きな枠で、それぞれの地域で出来ることを考える。

お寺に居るものは日曜学校などやっていますが、手伝ってくださる方が何人かおら

れます。また、高齢者ではそれぞれの地域でサロンをされていますし、支えるボランティアの方もおられます。地域の力をこういうものに引っ張り出すと、狭い地域の中で出来てきます。

〈意見：教育委員〉

そのコーディネートを誰がするかですね。

〈意見：教育委員〉

幸い学区にその地域づくり協議会がありますし、そういう役割を持っています。教育長が仰ったように放課後子ども教室という枠組みで考えると無理だと思います。地域で新しいものを発想するようなやり方で、クラブと連携するのはいいと思いますが、どこがやるのかということになると、クラブの支援員は精いっぱいだと思うので、地域づくり協議会で大事なことを共有できると、やる人が少しでも出てくると伝播すると思います。

〈教育長〉

それは私も非常に大事なことだと思います。制度を整えて、仕組みを整えてやるのも方法の一つだと思いますが、余呉地域ですでにそういう風なことをされているなら、そこをモデルケースとして発展させていく。地域にあったやり方、特色を生かす視点でやっていかないとしんどいかなと思います。

〈意見：教育委員〉

私は家庭のところから言いますと、たくさんのお母さんたちが共働きで働いています。平日は子どもと関わる時間が短く、とにかく生活のリズムを整えてあげることや、家がとにかく安心な場所になるようにすることで精いっぱいな人が多いと思います。

資料の「子どもを取り巻く環境の変化」の図で、学校と地域と家庭が同じ丸で三つあるのを見て、今のお母さんたちは放課後の子どもの居場所は学校と地域に任せてしまっている感覚がありまして、時間的には難しいかもしれないが、家庭ももっと関わらなくてはと初めて気づきました。

このことをお母さんたちみんながまだそんなに思っていないくて、働いているからクラブで見てくださいねというスタンスの方が多いと思いますし、これから色々変えていくときに、家庭として、各主体となってどう関わっていくべきか、教えてもらわないとわからないと思います。

どういう関わりが大切で、提案をしてくださるとお母さんたちの考え方が一気に変わるというか、任せてはいけなないと気付くと思いますし、気づかせてあげたいなと思いました。

〈教育長〉

毎日関わりたいけど、関われないからクラブへ行ってしまうんですが、月に一度とか、この時間帯とか、そういうレベルで色んな保護者の方が、色んな子どもたちが作っている人間関係を見るという機会は非常に良いと思います。

〈意見：教育委員〉

関わらなくてもいいとなんとなく思っていたのが、もっともっと入っていいと言ってくださったら、月一回だけでも見に行けるかもしれないし、全然変わる気がします。

〈意見：教育委員〉

他所の親が子どもに関わっている様子を見るのも学ぶ機会ですよ。

〈意見：教育委員〉

今はクラブの中に入ると意識が全くないので、ちょっと入っていききたいかもしれないです。

〈市長〉

こんなにクラブが本格化する5年ほど前のことですが、理想として実らなかったのですが、町内ごとにお寺を借りたり、町内会館を借りたりして、そこをクラブの教室にしようとしていました。支援員はお寺の住職や現役を終えて体が空いている方、空いているお母さんたちにさせていただいて、地域でクラブを起こそうとしていました。それが一番いいのではないかと。モデルケースでやろうと議論しましたが、叶わぬ夢でした。

委員の方も仰っておられることに通じていくことで、本来のモデルケースだと思うのですが、難しいところもあり、まだ実現していませんが、それが一番良いのではないかと思います。

〈意見：教育委員〉

地域で成功している高齢者のサロンでは、民生委員などの組織がそれぞれあり、有志の人がそれぞれやっています。そういう人たちを引き出してやっていけば、以前出来なかったことが、今状況が変わってきていますので、長浜の広い地域で、それぞれ違うとは思いますが、あらゆる可能性を探っていければなと思います。

4 議 事

(1) 協議事項

① 長浜市教育大綱（案）について

事務局は、配布資料に基づき、策定する長浜市教育大綱の基本的な考え方について説明を行った。その後、各構成員から意見は出なかった。

5 その他

〈事務局〉

本日の議事録については、内容を委員の皆さまに確認いただいたのち、ホームページにて公開する。次回の総合教育会議については、令和2年7月ごろに開催を予定している。来年度のテーマについては改めて案内をする。